

[34_1] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
34(1)

<https://doi.org/10.15017/1470455>

出版情報 : 図書館情報. 34 (1), pp.1-20, 1998-06-30. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 34, No. 1 (1998)

目 次

- ・附属図書館長就任にあたって…………… 1
- ・『扶桑名勝図』画像データベースを公開
 －附属図書館所蔵の国文学関係貴重資料－…………… 4
- ・「ESAKIA」全文データベースの入力がすべて完了 …… 5
- ・附属図書館データベースの利用申請について
 －有料化にともなう利用手続き－…………… 6
- ・医学部新CD-ROMサーバシステムについて…………… 8
- ・第39回貴重文物展観及び公開講演会を開催…………… 9
- ・本年度の研究開発室活動……………11
- ・古地図展示会を開催……………12
- ・平成10年度商議委員名簿……………14
- ・平成9年度特別図書購入一覧……………15
- ・平成9年度図書館利用統計……………16
- ・自著紹介……………19
- ・本学関係者著作寄贈図書……………20

附属図書館長就任にあたって

■
附属図書館長

有 川 節 夫

4月1日付けで、小山勉前館長の後任として就任しました。図書館には、専門のひとつが情報検索です。その意味で多少の関係はありましたが、これまではほとんど利用者としてお世話になるだけでした。特に、修士の学生時代、情報科学という言葉も未だ定着していなかったころ、言語学や心理学、数学に跨った境界領域をひとりで勉強することになり、図書や学術雑誌、プレプリント類が手に入らず、図書館職員によく手伝ってもらいました。そのような

親切な手助けが得られなかったら、身近に相談できるその分野の先輩もいないような状況でしたので、情報科学の研究を始めることはできなかったと思います。



以来、図書館と図書館職員に感謝の念を抱き続けてきました。

大学図書館基準には、大学図書館は、大学におけ

る教育研究の基盤施設として、学術情報を収集・組織・保管し、これを利用者の研究・教育・学習等のための利用要求に対し、効果的に提供することが主な機能としてあります。また、この機能を発揮するために、十分な規模・内容の調和のとれた蔵書構築、利用者の積極的な協力のもとで利用者の要望を反映した図書館資料の収集体制の確立、図書館資料の多面的かつ迅速な検索を可能とするための全国的・国際的な書誌事業の活用と整理業務の能率化・標準化、利用者からの要求に対する迅速・的確な対応を可能とする業務体制の整備、利用者の要求をふまえた蔵書の適切な維持管理と利用機会の提供等に努め、さらに、こうした業務の改善を図るための研究開発機能を併せもたなければならない、というようなことが定められています。

本学の附属図書館も、その約76年の歴史を振り返ってみますと、歴代図書館職員の努力と利用者や関係者の理解・協力・支援により、上記の向上基準にそった形で整備され発展・充実してきたことが窺われます。比較的最近の主なイベントをざっと拾い出しても、昭和47年の中央図書館新館の竣工、昭和49年の旧図書館を使った全学保存図書館の運営開始、昭和52年の医学・生物学系外国雑誌サブセンター館指定(医学分館)、昭和56年の中央図書館への電算機の導入と地区センターとしての業務開始、昭和61年の学術情報センターとの接続、昭和63年の学術情報センターへの目録データ入力開始、平成4年のOPACサービス開始、NACSIS-ILLシステムの運用開始、平成8年の新電算機システムの運用開始とCD-ROMサーバによるネットワークを介したデータベースサービスの開始、学内措置による附属図書館研究開発室の設置、及び週及入力事業の開始、平

成9年の休日開館の実施、平成10年の九州地区国立大学図書館協議会による各種データベースの共同運用実験の開始、等々があり、それぞれの時代の要請に応え、図書館を向上させるために大変な努力が注がれてきたことがわかります。

一方、財政基盤の確立や筑紫分館の創設、医学分館や文系地区の収納スペースの確保等、難問も数多く残されています。また、最近のネットワーク社会に対応した新しい図書館機能の構築が強く求められています。ネットワーク社会は、これまでの図書館が果たしてきた図書館資料の収集・組織化・管理・提供という機能に加えて、学術情報の創造・発信とその世界規模での共有という新たな機能を可能にしています。こうした新しい機能は、電子図書館的機能によって初めて現実のものになります。平成8年7月には、学術審議会から「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」という建議が出され、既に京都大学を始めとするいくつかの大学で文部省からの予算措置を得て実現されつつあります。

大学図書館は、全国あるいは地域、国公私の区分等で協議会を設け相互に連携・協力しながら様々な事業を行い、問題解決を図るという良い伝統が定着しています。図書の相互貸借(ILL)、蔵書目録データベースの構築、各種の研修、調査研究、著作権・複写権処理の問題解決、新しいシステムの検討、新しいサービスの実験等、様々な活動を行っています。こうした相互協力と共同作業は、電子化が進めばさらに効果的になると思われます。例えば、本学の電子図書館化計画では、学術情報の発生源でデータベースを分散(分担)構築することにひとつの特徴がありますが、この考えを全国規模で展開し、分担して

データベース化すれば、各大学で独自性と特徴のあるデータベースが整備され、全体としては網羅性のあるデータベースが構築でき、ネットワークを介して活用することができます。このような方法は、少なくとも技術的には容易に国際的な規模にまで拡大できます。しかし、電子化を標榜するには、まず図書カードの遡及入力を済ませ、ネットワークを介してどこからでも検索できるようにしておかなければなりません。この作業は、図書カード自体の書式や記述等が実に多様であるため、結局人手に頼らざるを得ず、多くの経費と時間を必要としますが、最近国立大学図書館協議会と学術情報センターの努力で完成した新しいシステム(CATP-AUTO)によるデータベースの共同構築に参加することによって、作業の能率化が図られるものと期待されています。

九州地区国立大学図書館協議会が文部省および九州大学大型計算機センターの支援で全国に先駆けて行った引用索引データベース Web of Science の共同利用実験や、ECO(Electronic Collections Online)データベースの実験運用等は、電子図書館の可能性とネットワーク時代における大学図書館の新しいサービスの形態を実感させました。これを定常的なサービスにするには、サーバの増強や経費負担、国際契約等、新たな難しい問題もあります。

最近、大学だけでなく一般社会も情報化・電子化ということに目を奪われがちですが、大学図書館としては、伝統的な図書館機能の整備・拡充もこれまで以上に重要になってきていると思います。特に、文系の学生や研究者にとっては、大学図書館は文字通り学習・研究の基盤となる装置であり、(開架式)閲覧室は、文系理系を問わず、専門的な学習や研究

のためだけでなく総合的な知識を修得する上で他のものに代え難い機能を有していると思います。また、本年5月に開学記念行事の一環として中央図書館で開催された貴重文物展観における「東西の古医書に見られる身体—九州大学の資料から—」は、総合大学の図書館の意義と古い資料の重要性を非常な迫力で示し、大学人だけでなくマスコミをはじめ多くの市民の注目を集めました。医書という理系の図書資料群が数世紀という時系列の中で、文化としての新たな価値と意味をもつことが具体的に示されていました。ここにも、大学図書館のもつ伝統的な機能を見たように思います。

本学の附属図書館では、この数年間に、文庫の整理、電子化への対応、種々のデータベースの開発、研究開発室の設置等に見られるように、利用者に見える形での整備・改革が着実に進められてきました。こうしたこれまでの方針・方向を継承・発展・充実させることから始めて、全国の大学図書館が抱えている諸問題に他の大学図書館等と協力して取り組み、同時に本学固有の問題、すなわち、電子図書館システムの構築や医学分館の増築、筑紫分館創設のための条件整備、新キャンパスにおける図書館計画、大型計算機センターとの連携、財政基盤の強化等に、図書館職員とともにあらゆる可能性を探りながら取り組み、さらに研究開発室の仕事も手掛けたいと考えています。

総長、各部局長、事務局長をはじめ全学教職員の皆様の深いご理解と積極的なご支援をお願いいたします。

(ありかわ せつお システム情報科学研究科教授)

「扶桑名勝図」画像データベースを公開

— 附属図書館所蔵の国文学関係貴重資料 —

附属図書館が所蔵する貴重資料のうち新たに標記の画像データベースをホームページを通して、4月1日から学内外に公開した。

『扶桑名勝図』は、正徳三年（1713）から享保十三年（1728）にかけて京都の書肆・小川多左衛門（柳枝軒）によって刊行された、日本四大名所の木版手彩色絵図である。

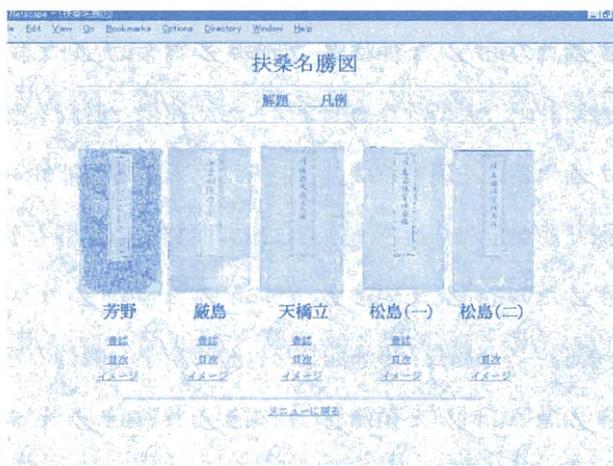
日本三景として知られる厳島（広島県）、天橋立（京都府）、塩竈・松島（宮城県）と桜の名所として名高い吉野山（奈良県）の眺望が端麗な筆致で描かれ、またそれぞれに、福岡藩儒・貝原益軒、仙台藩儒・佐久間洞巖らの名所考が付されている。

『扶桑名勝図』は、書籍としての形態に特徴がある。我々が普通に目にする和装本は冊子型のものであるが、ここでは「折帖仕立て」というやや特殊な形態が採られている。「折帖仕立て」とは、卷子本（いわゆる巻物）から派生した形態と考えられるもので、横長に繋げられた料紙を、卷子本のように「巻く」のではなく、ある一定の幅で織り畳んでゆき、前後に表紙を付けたものである。ちょうど卷子本と冊子

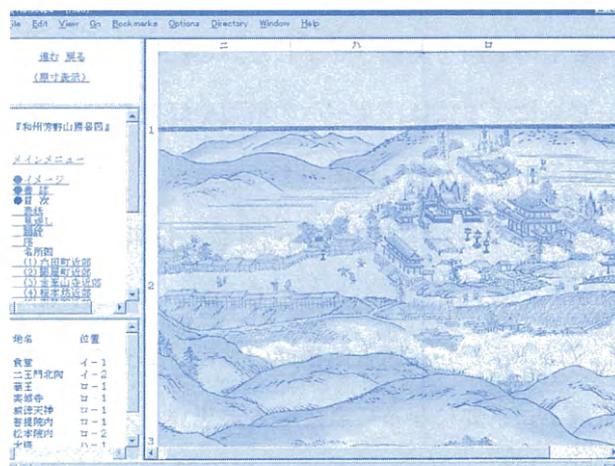
本の中間的な形態ということができる。したがって『扶桑名勝図』の各帖は、例えば絵図よりも先に名所考を参照したい場合などは、冊子本と同じように容易にその場所を開くことが可能であるし（卷子本では、一々その場所まで巻き広げてゆく必要がある）、また絵図部を一続きのものとして見たい場合は、卷子本のように広げて行けば、そのパノラマの如き眺望を楽しむことが可能である。

今回の公開データベースでは、絵図に記された地名と名所考に記された地名をでき得る限りリンクさせ、絵図から名所考へ、名所考から絵図へという操作を容易に行えるよう工夫した。また、見開きの画を数面連結させることによって、横長に引き延ばした状態のイメージ画面をも用意した。これらによって、原本の持つ使用性が、かなりの程度まで忠実に再現されることと思う。

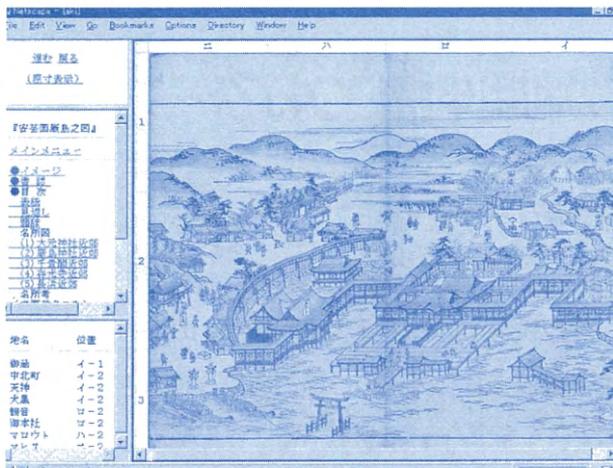
このデータベースは、附属図書館研究開発室員の中野三敏文学部教授が中心となって作成されたものである。



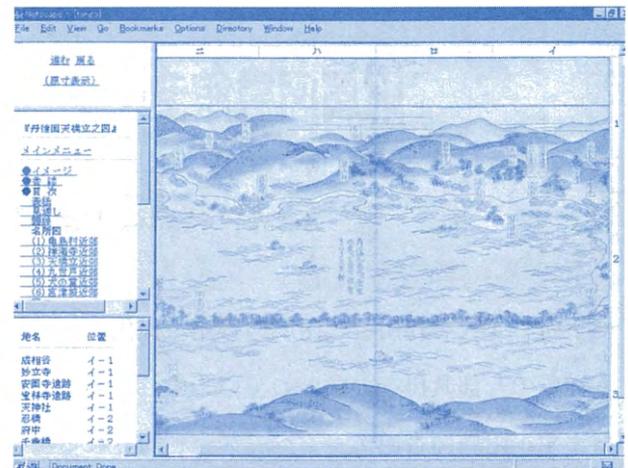
「扶桑名勝図」初期画面



「和州芳野山勝景図」名所図画面



「安芸国厳島之図」名所図画面



「丹後国天橋立之図」名所図画面

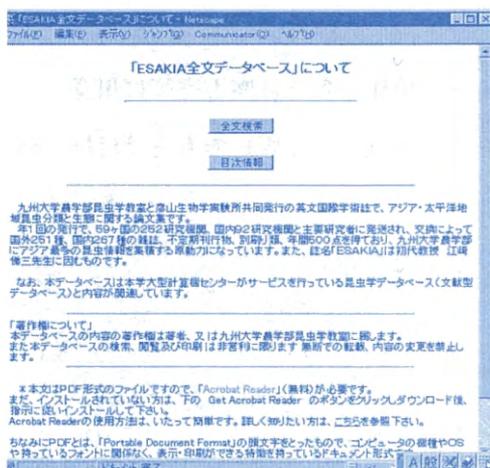


「ESAKIA」全文データベースの入力がすべて完了

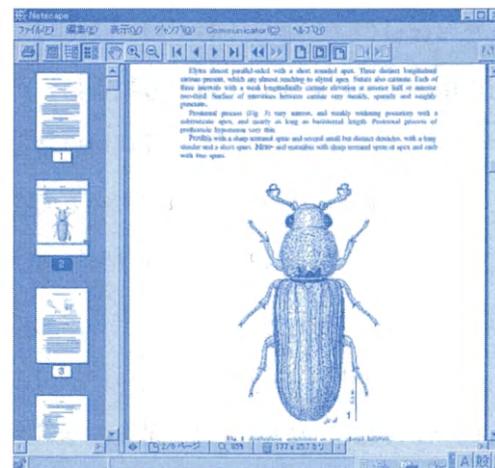
平成9年5月、No.35~36 (1995~96) 分を公開した農学部発行の英文学術雑誌「ESAKIA: Kyushu University Publications in Entomology」全文データベースは、このほど、初号まで遡っての電子化作

業が終了し、No.1 (1960) から最新号のNo.38 (1998) までの全ページについて、Web上で検索・閲覧することが可能となりました。

(農学部図書掛)



データベース紹介画面



検索結果画面

附属図書館データベースの利用申請について

—有料化にともなう利用手続き—

学内LANを利用して附属図書館が提供するデータベースの検索サービスは、平成10年4月から利用者にも経費の一部負担をお願いしています。このため従来の全学共通ID（cdptest）での利用はできなくなっています。附属図書館データベースを利用される場合は新たなユーザーIDが必要です。

つきましては、下記のとおり利用申請を受け付けていますので、「利用申請書」でお申し込みください。

記

1. 利用資格

本学教職員

本学院生及び学生（ただし、教職員の申請したIDでの利用です）

2. 利用申請

①利用に当たっては利用申請によるユーザーIDの取得が必要です。

ただし、MEDLINE 利用については病院地区部局、ERIC と PsycLit 利用については教育学部に所属される方は申請の必要はありません。その他のデータベースを利用される場合は利用申請が必要です。

②病院地区部局、教育学部以外の部局の教職員のデータベース利用は、「利用申請書」でお申し込みください。個人専用のユーザーIDを配布します。このIDは複数台での同時利用はできません。（注：PsycLit については1サイト契約のため箱崎地区部局の教職員のみ利用申請することができます）

③「附属図書館データベース利用申請書」に記入、捺印のうえ、情報サービス課参考調査掛に提出してください。利用申請者は校費を利用できる本学教職員に限られます。大学院生及び学生の利用は、申請を行った教職員のユーザーIDで行ってください。

④「利用申請書」は附属図書館参考調査掛、医学分館、六本松分館、各学部図書室等に用意しています。又、図書館ホームページにある「利用申請書」をコピーした用紙（A4版）でも受け付けています。いずれの場合も経理担当者の確認印が必要です。

☆FAX、電子メールでの申請は受け付けませんのでご注意ください。

3. 利用できるデータベースと個人利用料金

(1) 「Current Contents. All Editions」 20,000円／年間

- 世界の主要雑誌の最新目次情報を抄録付きで見ることができます。

（毎週データ更新）

- 速報に重点が置かれ、雑誌が到着する以前に目次を見ることができる場合もあります。

- 雑誌の目次ページを次々に画面表示して見られます。
- 多様な検索ができます。

著者名、論文名、雑誌名、巻号数、所属機関、カテゴリー、最新更新分等で限定できます。また、これらを組み合わせた検索もできます。

- 抄録中の用語も検索できます。
- 検索結果を手元のパソコンで印刷したり、保存することができます。

収録分野（セクション名）

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1) Agriculture & Biology | 5) Life Sciences |
| 2) Arts & Humanities | 6) Physics & Chemistry |
| 3) Clinical Medicine | 7) Social & Behavioral Sciences |
| 4) Engineering & Technology | |

- (2) 「MEDLINE」 5,000円／年間

医学生物学分野（抄録を含む）

収録範囲：1966年－最新（毎月更新）

- (3) 「ERIC」 5,000円／年間

教育学分野（抄録を含む）

収録範囲：1966年－最新（毎月更新）

- (4) 「PsycLit」——新規サービス 10,000円／年間

心理学分野（抄録を含む）

収録範囲：1974年－最新（年4回更新）

* 図書館データベース有料登録数（6月23日現在）

| 登録者数 | Current Contents | MEDLINE | ERIC | データベース合計 |
|------|------------------|---------|------|----------|
| 189名 | 169件 | 67件 | 5件 | 241件 |

【申請書提出及び連絡先：附属図書館情報サービス課参考調査掛 電話 2336、8256】



医学部新 CD-ROM サーバシステムについて

本年度から医学中央雑誌1987年～最新版、Chemical Abstracts Collective Index 12th (1978-1991) on CD、雑誌記事索引 遡及版1985年～1989年が、このシステムにより利用できます。まだ調整中の部分がありますが、今後は利用の多いデータベースを増やしていく予定です。

このシステムは、アクセスに Windows 95 や Windows NT から WWW を媒体として、マウスでホームページ上のアイコンをクリックするだけでアプリケーションを起動することができる "Point and Click" インターフェイス技術を使ったものです。

ただし、このシステムは K I T E につながった学内の PC でのみ利用できます。学外からの利用はできません。接続できるハードウェアは原則として OS が Windows 95 もしくは Windows NT ver.3.51 Work Station 以上の PC のみとなっておりますが、マッキントッシュをお使いの利用者は、Windows 95 エミュレータソフト (Virtual PC, SoftWindows 95, Real PC for Power Mac 等) を起動させることで利用が可能です。その環境から WWW ブラウザ (Netscape Navigator ver.2 か Internet Explorer ver.2 以上) を利用することにより、初めて当サーバシステムを利用することができます。同時アクセスは各データベース毎に 4 端末しか利用できないので、利用者が多い場合は接続できない場合がありますのでご注意ください。

検索のホームページのアドレス：<http://www.mlib.lib.kyushu-u.ac.jp>

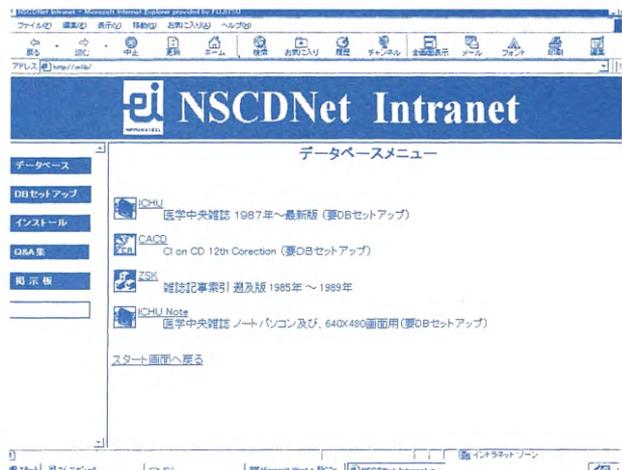
質問の問い合わせ先：医学分館参考調査掛(内線6040)

(E-mail:ref@medlib.med.kyushu-u.ac.jp)

医学分館サーバシステム



検索開始画面 (データベースメニューを選んだ時)



利用 OS Windows NT 4.0 server

CPU:Pentium 200MHz HDD:6.3G

24倍速 CD-ROM×28×2 なので最大56枚の CD-ROM へアクセス可能

第39回貴重文物展観及び公開講演会を開催

中央図書館では、5月11日の開学記念日(87周年)の一環として貴重文物展観(5月11日～5月17日)と公開講演会(5月11日 午後2時から)を開催しました。

〔貴重文物展観〕

今回で39回を数える貴重文物展観は「東西の古医書に見られる身体 九州大学所蔵資料から」をテーマとして医学分館、医学部解剖学教室、医学部法医学教室、法学部等が所蔵する図書、人体模型な

ど貴重な展示品、約100点余りを展示しました。

貴重書の中には言語文化部のヴォルフガング・ミヒエル教授が本学保存図書館で調査された16世紀の古医書も展示され、マスコミ(新聞、テレビ、自治体広報)などで大きく報道され学内外の関心をよび、休日を含めた7日間の展示会で期間中の入場者は540名を超える盛況でした。また、海外へ向けて衛星放送などでも紹介されました。



会場での杉岡総長(左から)、W.ミヒエル教授
有川図書館長、熊谷事務部長



展示会場風景

〔公開講演会〕

公開講演会は本学開学記念日の5月11日(月)午後2時から中央図書館4階視聴覚ホールにおいて、W.ミヒエル教授の豊富なスライドを中心とする展示資

料の解説が行われました。当日は豪雨のなか100名を超える市民など学内外の参加者があり、大変好評でした。



公開講演会

【アンケートの感想から】

医学という人間にとってもっとも大切な学問でさえ、なかなかその身体を直接観察できなかったということが新鮮だった。人間にとって身体とはもっとも身近な存在であり、同時につかみどころのないような存在であり、それを学問の対象とすることに、いつまでも恐れやためらいを感じさせるようなものだろう。現在でも遺伝子治療、クローン技術などは一方で大きな期待が寄せられ、また一方では大きな不安をかかえている。そうした不安や畏怖とのたたかいが医学という学問の特徴なのだろう。 (市民 男性)

期待以上におもしろかった。医学にあまり興味のない方なのだが、中世における医学や「人生の空しさ」と題された箇所などは宗教や哲学に深く関係している印象を受け、今日理系、文系とわけられてしまっている学問の何か共通点のようなものを感じた。また、最近の雑誌や本からの写真もあり、より退屈させない内容で良かったと思う。 (学生 女性)

テーマ設定が明瞭であり、解説も詳細で密度の濃い内容の展示であったと思う。中でも西洋医学と東洋医学の交流に注目している点は興味深い。少しだけ難点を言うと、今回展示されていた書籍（特に洋書）に付されていた説明板が記す成立年代と実際に今展示している本の関係（当時のものか、それとも後世の復刻版か）の説明をしなければ、九大図書館所蔵本の貴重さがよく理解できないと思う。また、内容については解剖書の中に女性の解剖図が見られない（少なくとも今回は展示されていない）事への解説が欲しいところである。 (大学院 男性)

衛生博覧会ってのがどんなのか多少想像がつく内容に大満足、ヨーロッパ人のグロテスクな趣味や感覚がたのもしい。バロックてイイナ。あともうちょっと挿絵が多かったら、時代順にならんでいたら私の学問の参考になったのですが……。 (学生 男性)

九大医学部を卒業した者ですが、学生時代またその後、医学部図書館に貴重な古い医書があるのを知っていました。全部集めて整理する必要があると思っていましたが、医学部内に歴史を専門とする人材がなかったのが残念でした。19～20世紀初頭の本がまだ医学部内にある筈です。 (熊本 昭30年卒 男性)

説明不足のもの、説明の全くないものがあり今後のため一考を要します。文物展観のパンフレットは大変良く、ゆっくり拝読したいし、人にもすすめてく想います。 (名誉教授 男性)

長崎の儒医 向井玄升（その門人の山口元好の子孫であることから）

当時の本等について興味があり見せてもらいました。向井玄升のこと、漢方のこと等の展示もあるかと思っ
て参りましたが、17世紀の和本を見て感激しました。ちょっとルーツを探った思いです。見せていただい
て有り難うございました。 (福岡 女性)

本日、最終日 第4回目の訪問（5/11、5/14、5/16、5/17）

多くの友人、知人に紹介しました。小生はとても感動しています。

今後の医学が発展することを祈っています。これら貴重な医書を発見していただいたW. ミヒエル教授を
始め中央図書館の関係各位の方々に深謝致します。 (福岡 男性)

貴重な資料・標本もさることながら、医分館から保存図書館へ持ち込まれていて、いわば眠っていた資料を発見され、それを公表されたW. ミヒエル教授にありがとうございます。（福岡 男性）

模型と本を一緒にして、模型を使っていた当時の教育方法が再現できるような気がしました。大学教育と古書、模型の役割を明確にすることがユニバーシティ・ミュージアムの必要理由になりうるでしょう。

（教官 男性）

本年度の研究開発室活動

平成8年4月に附属図書館に設置された研究開発室では、附属図書館が従来の伝統的な図書館活動に加えて、知的情報サービスと情報発信を行う機関としての新たな役割を果たしていくため、学内の関係教官の協力を得て毎年度テーマを決め研究開発を進めています。

本年度の研究開発事項及び室員は次のとおりです。

1. 九州大学附属図書館における電子図書館システムの研究開発

室員 竹田正幸 システム情報科学研究科助教授

本学における電子図書館機能の実現方式を研究するとともに、マルチメディアデータベース、分散データベース、全文検索及び自然言語処理などの各種要素技術の研究開発を行います。

2. 九州大学附属図書館所蔵の国文学関係資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発

室員 中野三敏 文学部教授

今西裕一郎 文学部教授

本学で所蔵する国文学関係貴重書の画像データベース作成に当たっての対象資料の選定、入力方式、表示方式検索法等並びに讀本コレクション等の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発を行います。

3. 諸外国における大学図書館の組織、運営及びサービスに関する調査研究

室員 柳原正治 法学部教授

九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画策定並びに図書館サービスの高度化及び図書館業務改善に向けた諸外国における大学図書館の組織、運営及びサービスに関する情報収集と調査研究を行います。

☆なお、平成9年度の研究開発室の研究成果をまとめた、「附属図書館研究開発室の概要1997～98(第2年次)」を1998年4月に刊行しています。

古地図展示会を開催

中央図書館の長沼文庫(故長沼賢海教授旧蔵書)にはヨーロッパ製古地図が貴重書として保管されています。中央図書館では昭和56年に貴重文物展観として学内外へ公開しましたが、この度この資料類を古地図展「ヨーロッパから見たアジア・日本」として6月から7月にかけて2回にわけて公開しています。歴史上、多様な変化を見せるアジア図・日本図をご覧ください。

開催期間： 第一部 平成10年6月2日(火)～30日(火)

第二部 平成10年7月2日(木)～30日(木)

開催場所： 中央図書館 玄関ロビー

開催時間： 図書館開館時間内(平日9:00-20:00, 土日祝日10:30-18:00)

第一部出展物解説(古地図展解説資料より)

1. 「アジア図」 作者・年代不詳

この図は作者・作成年代が判然としないが、内容はオランダの有名な地図製作者 A.Ortelius (1527-98) の「アジア図」(1567)とほぼ同じである。

ここにみられる日本は、リスボン生まれの地図製作者 B.Belho(1568没)の「世界図」(1561)や Ortelius の「タルタリア図」(1570)などの日本と同じ形状である。すなわち、IAPAN とある南北に長い島には、Meaco (都)、Xote(?), Amanguca(天草)、Bungo(豊後)など九州を含む地名がみられ、その南東には TONSA (土佐)として四国が、南には Congaxuma (鹿児島)のある島など3～4島にわかれた九州が描かれている。16世紀の末、L.Teixera の日本図の出現までは、ヨーロッパ製地図にみる日本は実際とはほど遠い数種類の形状で示されたのであるが、この図の形もその一つである。なお、この図には記載はないが、Ortelius 図では IAPAN の東にのぞく陸地に ZIAMPAGV すなわちジパングの地名がみえる。

2. 「日本諸島図」 L. Teixeira, 1595年

ポルトガルの地図製作者 L.Teixera(1564頃-1613) の日本図は、オランダの A.Ortelius の世界地図帖・増補版(1595)に第107図として入れられたものである。

この図は、ヨーロッパでのそれまでの日本図にくらべて、海岸線の出入り、山脈、河川、湖の描写、国名の記載などその形状、内容ともに大きな進歩をみせたものである。

この図の東西に長い日本の形や東の海にある実在しない島々などは、最も古いタイプの日本図である行基図系統の一つ唐招提寺蔵日本図と同じである。しかし、唐招提寺図では島となっている志摩国が、この図では紀伊半島に正しく入れられており、また、東北北部の海岸線、九州の形、山脈や河川などの描写は、桃山時代の日本図屏風と同じ特色をみせていて、全体的に屏風図の流れを汲むものとされている。いずれにせよ、この図は、Bacasa(若狭)島などの誤りはあるが、17世紀中頃までヨーロッパにおいて影響を与えた地図である。

3. 「新アジア図」 N. Visscher, 1657年

オランダの地図製作者 N. Visscher(1618-79頃)のこの図では、日本とその周辺は Bacasa 島、細長い九州、島になっている朝鮮半島など Teixeira 図の影響がみられる。また、日本の北方地域については未だ何も示されていないが、その北のアジアとアメリカの間に海峡が描かれている。すなわち、突出したアジア北東部 AMERICAЕ PARS (アメリカ地方) との間には、北のタルタリア海と南のオクシデンタル (北の) 海を結ぶ海峡があり、それには Anian という名称がつけられている。この「Anian」は、イタリアの J. Gastaldi が1561年の地図ではアジアの北方地域に、翌62年の地図では海峡に初めて使ったといわれるもので、それは彼が Marco Polo の旅行記にあった中国南方の地名からとったものである。もっとも、当時はこの「Anian」海峡はあくまでも想像上の産物であって、アジアとアメリカの関係については、まだ誰も知らなかったのである。

4. 「日本王国図」 P. Mortier, 年代不詳

オランダの地図出版者 P. Mortier (1724没) のこの図は、M. Martini(1614-61)の「日本王国図」(1655)を複製出版したものである。

Martini はイエズス会宣教師として1643年からその死に至るまで中国で布教活動をした人であるが、ヨーロッパに一時帰国した1655年、彼はオランダの地図製作者 J. Blaeu の世界地図帖のうちの「シナ地図帖」を刊行した。その第17図が日本図であるが、そこでは関東～東北の海岸線は1643年この沖合を北上したオランダ東インド会社の M. Vries の報告にもとづいてかなり正確に描かれ、Teixera 図にある実在しない島々はみられない。また、中部地方や瀬戸内の海岸線は、東北の海岸で捕えられ、釈放後江戸から長崎へ旅した Vries の僚船プレスケンス号一行について記した A. Montanus の「日本誌」(1650年頃)所収の地図と類似している。Teixera 図よりも正確な Martini の日本図は、18世紀初め頃までヨーロッパで大きな役割を果たした。

5. 「68州に区分された日本帝国図」 E. Kaempfer, J. Scheuchzer, 1727年

E. Kaempfer(1651-1716)はオランダ商館医師として元禄3年(1690)から2年間わが国に滞在、帰国後持ち帰った資料をもとに著述をはじめたが、刊行に至らないまま没した。その後、彼の遺稿などはイギリス人 H. Sloane の手に渡り、Sloane の依頼をうけた J. Scheuchzer がそれをまとめ、1727年「日本誌」(2巻)をロンドンで出版した。その際、Kaempfer の資料によって Scheuchzer が作成したのがこの日本図であるが、これはエゾや四国を除けば浮世絵師石川流宣の「大日本図鑑」延宝6年(1678)によっている。約一世紀の間、民間に流布した華麗で実用的な流宣の日本図は、そのやや誇張した描写によって、当時の幕府作成の日本図に比べると正確さでは劣っていたが、国名その他内容の点では豊富であって、その特色を受け継いだこの図は18世紀のヨーロッパでも普及することとなったのである。

なお、左上の付図のうち右の図は、本図では松前が島になっているところなどを Scheuchzer が「大日本図鑑」にもとづいて渡島半島の形に補訂したものである。左の図には、カムチャッカ半島と奥エゾすなわちサハリン、千島などが一体となったアジア北東部が示されている。このほか、日本製の羅針盤、わが国

から中国各地やオランダなどへの距離表、国・郡・社寺などの数、宗派による数種類の数珠、大黒、恵比寿、歳徳神などが描かれている。また、版によってはいくつかの家紋を描いたものもある。

第二部出展物紹介 平成10年7月2日～7月30日

1. 大タルタリア、大モンゴル帝国、日本および中国図

F. de Wit 1660年 オランダ

2. 中国・タタール、朝鮮および日本王国全図

T. Mayer 1749年 ドイツ

3. アジア図

Dezauche 1788年 フランス

4. アジア図

N. Visscher 17世紀後半 オランダ

附属図書館商議委員名簿

平成10年5月11日現在

| | | | |
|--------------|---------------|------------------|----|
| 委員長○有川 節夫 | 図書館長 (システム情報) | 委員 横川 洋 (農) | 教授 |
| 委員○井上 尚英 | 医学分館長 (医) | 〃 久原 哲 (〃) | 〃 |
| 〃 ○高藤 冬武 | 六本松分館長 (言文) | 〃 ○菊地 成朋 (人間環境) | 〃 |
| 〃 谷 隆一郎 (文) | 教授 | 〃 ○中溝 幸夫 (〃) | 〃 |
| 〃 今西裕一郎 (〃) | 〃 | 〃 松尾 文碩 (システム情報) | 〃 |
| 〃 石川 捷治 (法) | 〃 | 〃 ○平澤宏太郎 (〃) | 〃 |
| 〃 河内 宏 (〃) | 〃 | 〃 寺園 喜基 (比文) | 〃 |
| 〃 荻野 喜弘 (経) | 〃 | 〃 吉岡 斉 (〃) | 〃 |
| 〃 時永 祥三 (〃) | 〃 | 〃 鎌田 正良 (数理研) | 〃 |
| 〃 田中 武彦 (理) | 〃 | 〃 吉川 敦 (〃) | 〃 |
| 〃 ○森信 俊平 (〃) | 〃 | 〃 阿部 弘 (総理工) | 〃 |
| 〃 恒吉 正澄 (医) | 〃 | 〃 益田 光治 (〃) | 〃 |
| 〃 小坂 俊夫 (〃) | 〃 | 〃 木村 元喜 (生医研) | 〃 |
| 〃 平田 雅人 (歯) | 〃 | 〃 蔵元 英一 (応研) | 〃 |
| 〃 白砂 兼光 (〃) | 〃 | 〃 ○今石 宣之 (機能研) | 〃 |
| 〃 ○小栗 一太 (薬) | 〃 | 〃 ○川崎 晃一 (健七) | 〃 |
| 〃 ○古賀 登 (〃) | 〃 | 〃 ○徳見 道夫 (言文) | 〃 |
| 〃 ○内野 健一 (工) | 〃 | | |
| 〃 ○難波 昌伸 (〃) | 〃 | ※ ○印は新任委員 | |

平成9年度 特別図書購入一覧

| 学部 | 順位 | 図書資料名 | 形態 | 出版社等 |
|---------|----|---|--------|--|
| 文学部 | 1 | Blatter fur Deutsche Landesgeschichte. Jg. 119-131 (1983-1995) (ドイツ地域史雑誌) | ジャーナル | Gesamtverein der Deutschen Geschichts- und Altertumsvereine |
| | 2 | 旧植民地人事総覧 朝鮮編 全8巻 | 図書 | 日本図書センター |
| | 3 | 保坂本源氏物語/伊井春樹編 全12巻 | 図書 | おうふう |
| 教育学部 | 1 | 教育関係雑誌目次集成/教育ジャーナリズム史研究会編 第2期 学校教育編 7巻-14巻(8巻セット) 第4期 国家と教育編 24巻-28巻(5巻セット) | 図書 | 日本図書センター |
| | 2 | Journal of Speech and Hearing Reserch. Vol. 30-39 (1987-1996) (言語聴覚研究) | ジャーナル | American Speech & Hearing Association |
| 法学部 | 1 | The Documentary History of the Truman Presidency. (トルーマン大統領政治史料集) Vol. 1, 3-4, 6-13. | 冊子体 | Univ. Pub. of America (USA) |
| | 2 | 内外社会問題調査資料-内外労働週報 第1巻~第20巻 | 復刻版 | 皓星社 |
| 経済学部 | 1 | The Political Economy of East Asia. (東アジアの経済政策) | 図書 | Edward Elger (UK) |
| | 2 | Collected Works of Alfred Marshall. 8 vols. (マーシャル著作集) | 図書 | Overstone Press 極東書店 |
| | 3 | Oxford Review of Economic Policy. Vol. 1-9 (1985-1993) | ジャーナル | Oxford Univ. Press (UK) |
| 比較社会文化研 | 1 | Philosophical Topics. Vol. 1-6, 11-12 (1970-75, 1980-81) | ジャーナル | Univ. of Arkansas Press (USA) |
| | 2 | Le Monde sur CD-ROM. De 1993 a 1994, & De 1995 a Aujourdhui. | CD-ROM | ル・モンド (フランス) |
| 中央図書館 | 1 | Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur aus allen Gebieten des Wissens. Bd. 32 (1996) | 冊子体 | F. Dietrich Verl. (ドイツ) |
| | 2 | CD-ASAX 50yrs. 1945-1995. (朝日新聞戦後50年見出しデータベース) | CD-ROM | 朝日新聞社 |
| | 3 | 日本経済新聞 CD-ROM 版インデックス 1990-1994年 | CD-ROM | 日本経済新聞社 |

平成9年度 図書館利用統計

| | 中央図書館 | 医学分館 | 六本松分館 | 合計 |
|------------------|---------------------|---------------------|------------------|---------------------|
| 入館者数 (学外者：内数) | 312,503 (12,991) | 135,726 (11,976) | 185,198 (814) | 633,427 (25,781) |
| 館外貸出冊数 | 47,006 | 34,473 | 33,799 | 115,278 |
| 内訳 | | | | |
| 教職員 | 2,239 | 12,900 | 9,630 | 24,769 |
| 学生・院生等 | 43,313 | 21,573 | 24,169 | 89,055 |
| 学外者 | 1,454 | 0 | 0 | 1,454 |
| レファレンス件数 | 7,487 | 13,380 | 10,592 | 31,459 |
| 内訳 | | | | |
| 教職員 | 1,460 | 7,359 | 2,076 | 10,895 |
| 学生・院生等 | 4,024 | 5,352 | 8,245 | 17,621 |
| 学外者 | 2,003 | 669 | 271 | 2,943 |
| 内訳 | | | | |
| 所在調査 | 4,636 | 3,748 | 3,938 | 12,322 |
| 事項調査 | 541 | 5,618 | 182 | 6,341 |
| 利用指導・その他 | 2,310 | 4,014 | 6,472 | 12,796 |
| オンライン情報検索サービス件数 | 265 | 606 | - | 871 |
| 内訳 | | | | |
| DIALOG | 119 | 24 | - | 143 |
| JOIS | 109 | 520 | - | 629 |
| NACSIS-IR | 37 | 62 | - | 99 |
| CD-ROM 情報検索件数 | 122,169 | - | 65 | 122,234 |
| 文献複写サービス件数 | 59,445 | 156,953 | 5,673 | 222,071 |
| 学内者の複写件数 | 44,180 | 100,841 | 5,360 | 150,381 |
| 学外からの受付件数 | 11,503 | 42,695 | - | 54,198 |
| 国内 | 11,503 | 30,416 | - | 41,919 |
| 国外 | 0 | 12,279 | - | 12,279 |
| 学外への依頼件数 | 3,762 | 13,417 | 313 | 17,492 |
| 国内 | 3,734 | 13,360 | 282 | 17,376 |
| 国外 | 28 | 57 | 31 | 116 |
| 図書・雑誌の相互貸借件数 | 1,148 | 97 | 325 | 1,570 |
| 他機関への貸出件数 | 772 | 38 | - | 810 |
| 他機関からの借用件数 | 376 | 59 | 325 | 760 |
| 国内 | 376 | 59 | 316 | 751 |
| 国外 | 0 | 0 | 9 | 9 |

✦ 人事異動 (平成10年2月～平成10年4月)

(中央図書館)

3. 30 綾部 清香 情報システム課電子情報掛 (事務補佐員) (辞職)
 3. 31 小山 勉 (附属図書館長) 任期満了
 4. 1 有川 節夫 附属図書館長 (任期は平成13年3月31日まで)
 " 川瀬 正幸 情報システム課長 (図書館情報大学図書館情報課長)
 " 栗山 平 情報管理課課長補佐 (情報管理課雑誌情報掛長)
 " 青木生美子 情報管理課庶務掛長 (九州芸術工科大学庶務課企画広報主任)
 " 阿部 露子 情報管理課雑誌情報掛長 (六本松分館目録掛長)
 " 安永振一郎 情報サービス課相互利用掛長 (鹿屋体育大学図書館情報課情報サービス係長)
 " 穴見 一博 情報サービス課参考調査掛長 (佐賀大学附属図書館運用係長)
 " 林田 和政 情報システム課データベース掛長 (情報サービス課参考調査掛長)
 " 末信友実子 情報管理課庶務掛 (事務補佐員) (採用)
 " 長野 ふみ 情報システム課電子情報掛 (事務補佐員) (採用)
 " 渡辺 博 学術情報センター事業部システム管理課長 (情報システム課長)
 " 末次美知夫 鳥取大学附属図書館情報サービス課長 (情報管理課課長補佐)
 " 木下 隆司 教育学部庶務掛長 (情報管理課庶務掛長)

(医学分館)

4. 1 井上 尚英 医学分館長 (任期は平成12年3月31日まで)
 " 松本 孝文 閲覧掛長 (九州工業大学附属図書館情報工学部分館図書係長)
 " 下川 享子 受入目録掛 (理学部等図書掛)
 " 沖 政広 受入目録掛 (参考調査掛)
 " 大瀧 礼二 参考調査掛 (受入目録掛)

(六本松分館)

4. 1 高藤 冬武 六本松分館長 (任期は平成12年3月31日まで)
 " 松田 尚代 目録掛長 (情報サービス課相互利用掛長)
 " 上田はるみ 受入掛 (文学部図書掛)

(文学部)

4. 1 山田 玄連 図書掛長 (理学部等図書掛長)
 " 服部 綾乃 図書掛 (採用)

(経済学部)

4. 1 末信千代子 図書掛 (医学分館受入目録掛)
 " 井ノ上俊哉 図書掛 (六本松分館受入掛)



(理学部等)

- 2. 16 篠田真理子 図書掛 (事務補佐員) (採用)
- 4. 1 保田 秀人 図書掛長 (工学部等総務課図書掛長)
- 〃 仲 タカノ 図書掛 (経済学部図書掛)

(工学部等)

- 4. 1 緒方 義信 総務課図書掛長 (文学部図書掛長)

(生体防御医学研究所)

- 3. 31 野田 紀子 管理掛司書 (辞職)
- 4. 16 石鳴 和 管理掛 (事務補佐員) (採用)

(石炭研究資料センター)

- 4. 1 高田 宏昭 事務室 (経済学部図書掛)
- 〃 山根 良夫 九州工業大学附属図書館情報工学部分館図書係長
(石炭研究資料センター図書主任)

✦ 図書館日誌 (平成10年 2月～平成10年 4月)

- 2. 2 分館長会議
- 2 第166回附属図書館商議委員会
- 3 常設展「奈良絵本」第一部 (中央図書館) (26日まで)
- 6 平成9年度図書館職員等研修会 (電子図書館をめざして)
- 16 全学図書系掛長会議
- 16 図書資料分類法の統一に関する検討会議
- 17 福岡県・佐賀県大学図書館協議会平成9年度第3回福岡地区研究会 (中村学園大学)
- 27 新CAT/I LLシステム説明会 (九州・沖縄地区) (熊本大学)
- 3. 3 常設展「奈良絵本」第二部 (中央図書館) (30日まで)
- 3 目録システム地域講習会担当者連絡会議 (学術情報センター)
- 9 図書資料分類法の統一に関する検討会議
- 11 電子図書館的機能の充実・強化に関する国際セミナー (学術情報センター国際高等セミナーハウス) (13日まで)
- 24 平成9年度第3回研究開発室懇談会
- 4. 17 全学図書系掛長会議
- 23 第28回九州地区国立大学図書館協議会 (九州芸術工科大学)
- 24 第49回九州地区大学図書館協議会総会 (福岡女子大学)



自 著 紹 介

西村 明 (経済学部教授)

『Accounting in the Asia-Pacific Region』

[中央図書館：333.6/A 15]

本書は、アジア太平洋地域の18ヶ国・地域の会計制度及びそれらと環境（政治経済、文化、宗教等）との関係を取り上げ、特に会計制度を通じて文化が他国に移植・形成されていく過程を克明に分析している。本書は、私がニュージーランドのオタゴ大学に滞在した時に企画され、編者3人の研究者ネットワークを利用し、この地域に関連している34人の研究者の執筆により完成されたものである。会計と文化についての全体的な総括（序章と終章）は編者の討議に基づいている。私は、さらに「日本の会計制度の構造と特質」についての章を分担している。

本書の日本語版は、既に2年前に英語版の最初の原稿をもとに『アジア太平洋地域の会計』として九州大学出版会から刊行されているが、本書はそれよりも多くの国（パプアニューギニア、マカオ等）の会計制度を含んでおり、内容や表現にもさらに検討が加えられ、読み易くなっている。さらに経営管理や管理会計をも対象としており、また国際的にも始めての試みであり、注目されるものと思われる。

島田允堯 (理学部教授)

『砒素をめぐる環境問題 ：自然地質・人工地質の 有害性と無害性』

[理学部図書室 B/H 23]

砒素といえば昔から毒薬として名高い。九州では土呂久鉱山での鉱害問題が思い起こされる。ところが最近、この砒素が日本各地の井戸水から基準値を

超えて検出される場合があり、にわか環境問題としてクローズアップされてきた。そこで、日本地質学会環境地質研究会では砒素に焦点をあてて、平成8年11月にシンポジウムを開いた。この本は、その時の砒素汚染に関する事例と現状、生体への影響などの講演をわかりやすく解説したものである。

私の分担した「砒素含有地下水の地質環境」は、筑後平野の地下水に広範に認められた砒素汚染が地層からの自然溶出によると結論されたが、それに至る調査経緯と地質化学的考察について述べたものである。

内田博文 (法学部教授)

『刑法学における歴史 研究の意義と方法』

[中央図書館 326.01/U 14]

[法学部図書室 Sj 00/U/40]

為政者によれば、もはや戦後ではないと説かれて久しい。わが法学界でも同じ音色の合唱があちこちで聞かれるようになった。が、果たしてそうだろうか。戦後50年が経ったこれから、ようやく日本の戦後が始まるのではないか。そう思われてならない。戦争責任、戦後責任の問題も然りである。それでは、この50年とは一体、何だったのか。1946年生まれの子の団塊の世代としては、この疑問は切実なものがある。専門の刑法を通して、これを明らかにし、それを次の世代にバトンタッチしたい、というのが私のライフワークの一つで、本書はそのささやかな一歩である。筆者がこれまでに公表した論文のうち、刑法学における歴史研究の意義と方法に関わる数編を集め、加筆修正し、配列に意を払いつつ、全体としての整合性を図ったものである。本書で打ち出したかったのは「比較歴史法」の視点で、この比較歴史法的な考察を通して、日本の刑法あるいは刑法学の進むべき道を探りたい、というのが本書のひそかな願いである。



本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

〔中央図書館〕

内田博文（法学部教授）

「刑法学における歴史研究の意義と方法」

内田博文著

九州大学出版会 1997

[中央図書館 326.01 / U14]

[法学部図書室 Sj00 / U / 40]

西村 明（経済学部教授）

「Accounting in the Asia-Pacific region」

ed. by Nabil Baydoun, Akira Nishimura,

Roger Willett.

Singapore; New York : Wiley, c1997.

[中央図書館 333.6 / A15]

赤岩芳彦（大学院システム情報科学研究科教授）

「Introduction to digital mobile communication」

Yoshihiko Akaiwa. New York : Wiley, c1997.

[中央図書館 548.5 / A29]

〔文学部〕

迫野虔徳（文学部教授）

「文献方言史研究」

迫野虔徳著

清文堂出版 1998

[文学部図書室 国文 / 10L / 398]

〔理学部〕

島田允堯（理学部教授）

「砒素をめぐる環境問題：自然地質・人工地質の有害性と無害性」

日本地質学会環境地質研究委員会編

東海大学出版会 1998

[理学部図書室 B / H23]

九州大学附属図書館のホームページ・アドレスです。

URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/index-j.html>